

【入選】「給食はまほう」

安城南部小学校

杉田 優月

こういう出来事がありました。まだ、わたしが六年になりたてのころです。友達とクラスがはなれてしまい、新しいクラスになじめなくて不安でした。

ある日、給食中にとりの人がたくさん話しかけてきました。話をするにつれて、相手の子と仲良くなることができました。ちよつとした話でも盛り上がり、たくさんの友達と話せるようになりました。そのときの給食は、とてもおいしく感じました。その日から、たくさんの人を巻き込みいろいろな話をしました。例えば、アイドルのかみ型のことやニュース番組の話、他にも英語の先生といっしょに給食を食べたときは、英語でいろいろな質問をしました。だんだん話が盛り上がり、先生に怒られることもありましたが、やはり給食の時間はいつも楽しいです。休みの時間では、みんながバラバラに遊びに行ってしまうし、授業中は、みんな勉強することに集中しています。もちろんわたしもです。ですが、給食は、みんなそろってご飯を食べるので周りの友達と話せる時間があります。いろいろなメニューが出てくるおいしい給食を食べながら、みんなと話す時間があるのが給食のみ力だと思えます。他にもこんなことがあります。六年生になってクラスになじめはじめたころ、自分から友達に話しかけることは苦手でしたが、給食の時間がきっかけでたく

さんの友達に話しかけることができるようになりました。それから、周りの友達と話す機会が増え、周りの友達の考えを理解することができたり、自分の思いを分かってくれたりする人が多くなりました。そのとき、給食の時間は特別なんだと改めて感じました。給食のありがたみを知りました。

給食の時間が好きになったので給食委員会をやってみたいと思いました。給食委員会で児童集会のときに発表もしました。そこでは、牛乳ビンの形や食器などの工夫など今までに知らなかったことをたくさん知ることができました。他にも、食べ物が残った場合は、肥料に変えていることなどゴミを減らす工夫をしていることなどいろいろな工夫があることを知りました。しかし、肥料に変えるには、たくさんのお金がかかるそうです。一番いいのは、給食を残さず食べることです。たくさんお世話になっている給食を残さないようにたくさんお代わりをして、少しでも残飯が少なくなるようにこうけんしたいです。

わたしは、今まで六年間給食を食べてきました。だからこそ給食のありがたみが分かります。これからも給食の時間にはいろいろな人と楽しく話し、食材や給食を作ってくれた人にも感謝しながら食べていきたいです。